

令和5年度・令和6年度 点検・評価 総合評価(CHECK) ※令和5年度は、「新型コロナウイルス感染症による影響」を踏まえた総合評価

成果指標		目標値 (R8年度)	基準値 (プラン策定時)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
施策8 青少年の育成	リーダー養成講習会（ジュニアリーダー講習会、シニアリーダー講習会、レクリエーション講習会）の参加者数及びジュニアサブリーダー講習会の修了証授与者数	360人	143人	275人	317人	363人	-
施策9 生涯学習社会への対応	社会教育施設（図書館・公民館）の満足度 ※調布市民意識調査 上段：図書館，下段：公民館	85.0%	80.7%	82.2%	80.4%	83.5%	-
		80.0%	74.4%	74.0%	74.0%	78.5%	-
施策10 地域ゆかりの文化の保存と継承	郷土博物館・実篤記念館の入館者数・事業参加者数（実篤公園利用者を含む）	55,000人	41,014人	51,985人	50,123人	-	-
評価結果		評価理由					
施策8	令和5年度	A	○二十歳のつどい、調布っ子“夢”発表会、リーダー養成講習会等の実施や家庭教育セミナーを開催するための支援を行ったことに加え、社会教育情報紙「コラボ」の発行や、青少年交流館・八ヶ岳少年自然の家を開館・運営したことなどを通じ、青少年を育成するための取組を推進することができたため。また、八ヶ岳少年自然の家については、施設老朽化に伴う改修工事を行い、工事の一環として、Wi-Fiを増設し、館内全域及び体育館で使用できるようになったことや令和6年度からの新たな指定管理期間に伴う指定管理者の指定等、計画的に取組を進めることができたため。 ●成果指標については、目標値に至らなかったものの、前年度を上回る数値となり、コロナ禍前の状態回復に向け、実績を伸ばすことができたため。				
	令和6年度	A	○二十歳のつどい、調布っ子“夢”発表会、リーダー養成講習会等の実施や家庭教育セミナーを開催するための支援を行ったことに加え、社会教育情報紙「コラボ」の発行や、青少年交流館・八ヶ岳少年自然の家を適切に開館・運営したことなどを通じ、青少年を育成するための取組を推進することができたため。 ●成果指標については、目標値に向けて着実に増加しており、コロナ禍前の状態回復に向け、実績を伸ばすことができたため。				
施策9	令和5年度	A	○社会教育関係登録団体への補助金の交付、学習グループ主催の公開講座への助成金の交付等、各種団体の活動に対する支援に加え、北部公民館におけるボニーの乗馬体験や、令和6年度中に図書館にICタグシステムを導入するための予算確保等、新たな取組を通じて、生涯学習社会への対応を推進することができたため。 ●成果指標については、図書館・公民館の満足度が各々、目標値に至らなかったものの、図書館の数値については基準値を上回ることができたため。				
	令和6年度	B	○社会教育関係登録団体への補助金の交付、学習グループ主催の公開講座への助成金の交付等、各種団体の活動に対する支援に加え、東部公民館の地域文化祭においては、AIを活用した展示物の音声説明の実施や、図書館におけるICタグシステムの導入等、新たな取組を通じて、生涯学習社会への対応を推進することができたため。 ●成果指標については、生涯学習社会へ対応するための様々な取組を実施してきたが、結果的に、公民館の満足度は昨年度と同率、図書館の満足度は昨年度より減少したため。				
施策10	令和5年度	A	○郷土博物館では、史跡下布田遺跡整備事業における史跡公園及びガイダンス施設の実施設設計の作成、市民ワークショップの開催、ヤギによる除草と環境学習イベントの開催、近隣小学校と連携した事業の実施に加え、郷土博物館公式X（旧Twitter）や市公式YouTubeを活用した情報発信を積極的に行った。武者小路実篤記念館では、実篤研究の情報収集発信基地として、春・秋の特別展、学校連携事業、調査・研究事業などを実施し、地域ゆかりの著名人の功績を活かした魅力発信を行った。図書館では、名誉市民水木しげる氏の作品など、地域ゆかりの著名人の功績を活かした魅力発信を行うとともに、東京現像所の展示等、市内の映画・映像関連企業と連携・協働し、「映画のまち調布」の特色を生かした事業展開を行った。各館における、工夫を凝らした事業展開を通じて、地域ゆかりの文化の保存と継承の取組を推進できたため。 ●成果指標については、目標値には至らなかったものの、積極的な情報発信と工夫を凝らした取組を通じて、基準値を上回ることができたため。				
	令和6年度	A	○郷土博物館では、開館50周年にあわせた常設展示のリニューアルや、国指定史跡「下布田遺跡」西側の整備、市指定史跡「近藤勇生家跡」の整備を行った。また、下布田遺跡整備事業では、市民ワークショップ、ヤギによる除草と環境学習イベント、近隣小学校と連携した事業を展開した。武者小路実篤記念館では、実篤研究の情報収集発信基地として、春・秋の特別展、移動展、学校連携事業、調査・研究事業などを実施し、地域ゆかりの著名人の功績を活かした魅力発信を行った。図書館では、名誉市民水木しげる氏の作品など、地域ゆかりの著名人の功績を活かした魅力発信を行うとともに、「映画のまち調布」の特色を生かした事業展開を行った。 ●成果指標については、実篤記念館における常設展示のリニューアルに伴う臨時休館等が影響し、入館者数・事業参加者数が減少となったが、地域ゆかりの文化の保存と継承をするため、様々な取組を実施することができた。				

施策8 令和5年度・6年度 点検・評価振返り

No.	主要事業 (所管課)		令和5年度・6年度の振返り	令和7年度以降の取組等
26	家庭教育への支援 (社会教育課)	令和5年度	<p>○家庭教育セミナーの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、PTAの負担軽減のため、説明会は実施せず、必要書類に「事務手続きについて」及び「よくある質問」をまとめた資料を添えて各学校に送付し、質問や書類提出はメールでの提出を可とした。オンライン及び会場とオンラインの併用による開催も可とした。令和5年度は、4校で開催され、148人が参加した。 <p>○社会教育情報紙「コラボ」の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回、各号19、200部発行、市内小・中学生の保護者に配付、その他関係各課及び市施設に配架した。 ・市ホームページにも紙面を掲載することにより、子どもに関わる地域の大人へ広く社会教育及び家庭教育の情報を提供することができた。 	<p>○家庭教育セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度においても、家庭教育セミナー開催校への助言や助成を継続して実施する。また、開催校及び参加者数ともに年々減少傾向であるため、引き続き、社会教育情報紙「コラボ」等の広報紙を活用し事業を周知するとともに、問い合わせや事務手続きにメール等を活用することで、PTAの負担軽減と支援に努める。 ・開催形態については、対面方式とオンラインの併用、オンラインのみも可とし、開催に係る通信費についても支援の対象とする。 <p>○社会教育情報紙「コラボ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、小・中学生の家庭に役立つ情報を掲載し、地域や家庭の教育力の向上を図る。
		令和6年度	<p>○家庭教育セミナーへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画・実施を行うPTAの負担軽減のため、昨年度に引き続き、事務手続き説明会は実施せず、必要書類に「事務手続きについて」及び「よくある質問」をまとめた資料を添えて各学校を経由して送付し、質問や書類提出はメールでの提出を可とした。 ・家庭教育セミナーの開催方法については、オンライン及び会場とオンラインの併用による開催も可として、開催状況としては、令和6年度、4校で開催され、156人が参加した。 <p>○社会教育情報紙「コラボ」の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回、各号20、200部発行、市内小・中学生の保護者に配付、その他関係各課及び市施設に配架した。 ・市ホームページにも紙面を掲載することにより、子どもに関わる地域の大人へ広く社会教育及び家庭教育の情報を提供することができた。 	
27	地域で活躍できる人材の養成 (社会教育課)	令和5年度	<p>○リーダー養成講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアリーダー講習会登録者19人（令和4年度登録者21人）。 ・シニアリーダー講習会登録者3人（令和4年度登録者10人）。 ・レクリエーション講習会登録者48人（令和4年度登録者18人）。 ・ジュニアサブリーダー講習会修了証授与者205人（令和4年度修了証授与者202人）。 	<p>○講習会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアリーダー講習会、シニアリーダー講習会、レクリエーション講習会を引き続き実施していく。また、ジュニアサブリーダー講習会については、引き続き活動を支援していく。 ・これまでの広報媒体（市報、ホームページ、SNS、チラシ、社会教育情報紙「コラボ」、調布FM等）を引き続き活用して事業の周知に努める。
		令和6年度	<p>○リーダー養成講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアリーダー講習会登録者35人（令和5年度登録者19人）。 ・シニアリーダー講習会登録者7人（令和5年度登録者3人）。 ・レクリエーション講習会登録者29人（令和5年度登録者48人）。 ・ジュニアサブリーダー講習会修了証授与者246人（令和5年度修了証授与者205人）。 	
28	青少年交流・体験事業の推進 (社会教育課)	令和5年度	<p>○青少年交流館の利用者数・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的室及び集会室における団体利用2,950人（375団体）、オープンスペース2,268人、自習室34人、延べ5,252人。使用者数は前年度から437人増加した（令和4年度 多目的室及び集会室における団体利用2,808人（353団体）、オープンスペース1,947人、自習室60人、延べ4,815人）。 <p>○調布っ子“夢”発表会の開催 令和5年度テーマ「わたしが考える未来の調布」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者14人（市内小学校7校）、来場者65人。 ・実施後は記録冊子を作成し、発表した児童及び小学校へ配付した。また、発表内容に関する市の取組について、発表者へ文書でお知らせした。 <p>○二十歳のつどいの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生の節目として将来について考える機会となる集いの場を、幅広い若者世代の参加の機会を設けながら実施した。 <p>○ハケ岳少年自然の家の維持管理・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恵まれた自然環境の中で、集団での宿泊生活をとおして、少年の心身の健全な育成を図った。 ・施設の老朽化に伴う改修工事（受変電設備改修工事、体育館外部改修工事、空調設備ほか改修工事及び防災設備改修工事）を実施した。工事においてはWi-Fiも増設し、館内全域及び体育館で使用できるようになり施設の利便性の向上を図った。 ・指定管理期間が満了することから、指定管理者候補者選定審査委員会にて候補者を選定のうえ、新たな指定管理者を指定した。 	<p>○青少年交流館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、青少年が同世代相互及び世代を超えた交流を通し、社会性や協調性を育み、豊かな人間性の形成を図る場を提供していく。 <p>○調布っ子“夢”発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、子どもたちに自由で夢のある意見発表の機会を提供するとともに、まちづくりへの参加意識の向上を図る。 <p>○二十歳のつどいの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、人生の節目として将来について考える機会となる集いの場を、幅広い若者世代の参加の機会を設けながら実施する。 <p>○ハケ岳少年自然の家の維持管理・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、恵まれた自然環境の中で、集団での宿泊生活をとおして、少年の心身の健全な育成を図る。 ・指定管理者と情報共有を図りながら、ハケ岳少年自然の家の適切な維持管理・運営を行う。 ・市立小学校5年生児童の移動教室のほか、新たに受け入れを行う、市立中学校のスキー教室において適切な受け入れ体制を構築する。 <p>○中学生海外体験学習事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣生徒に対する事前学習を実施するなど、8月の出発に向けて準備を進めていく。 ・帰国後には、現地での交流や体験を共有する報告会を開催する。 ・実施結果を踏まえて、次年度の計画及び準備を進めていく。
		令和6年度	<p>○青少年交流館の利用者数・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的室及び集会室における団体利用2,654人（395団体）、オープンスペース2,682人、自習室59人、延べ5,395人。使用者数は前年度から143人増加した（令和5年度 多目的室及び集会室における団体利用2,950人（375団体）、オープンスペース2,268人、自習室34人、延べ5,252人）。 <p>○調布っ子“夢”発表会の開催 令和6年度テーマ「わたしが考える未来の調布」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者10人（市内小学校5校）、来場者63人。 ・実施後は記録冊子を作成し、発表した児童及び小学校へ配付した。また、発表内容に関する市の取組について、発表者へ文書でお知らせした。 <p>○二十歳のつどいの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生の節目として将来について考える機会となる集いの場を、幅広い若者世代の参加の機会を設けながら実施した。 <p>○ハケ岳少年自然の家の維持管理・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恵まれた自然環境の中で、集団での宿泊生活をとおして、少年の心身の健全な育成を図った。 ・市立小学校5年生児童の移動教室の際に、多くの児童を受け入れた。 <p>○中学生海外体験学習事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の事業開始に向けて、事業実施方法の検討や他自治体の実施状況の調査を進めた。 ・事業計画の決定後、委託事業者の選定、派遣生徒の募集を行った。 	

施策9 令和5年度・6年度 点検・評価振り返り

No.	主要事業 (所管課)	令和5年度・6年度の振り返り	令和7年度以降の取組等
29	市民、社会教育関係団体等の活動への支援（社会教育課、公民館）	<p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校施設開放による市民の活動支援（利用日数 延べ6, 235日, 延べ利用者数199, 506人） <ul style="list-style-type: none"> ・各開放運営委員会との連携を図るために行う、総合開放運営連絡会の開催を対面及びオンライン併用で2回実施した。 ○学習グループ主催の公開講座への助成（7グループ, 講師謝礼延べ11人, 保育者謝礼延べ0人）、広報の支援, 令和4年度学習グループサポート記録の発行（6月） ○社会教育関係登録団体活動事業補助金の交付 <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育関係登録団体からの申請に基づき, 13団体へ交付した。 ○公民館登録団体等の活動への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館登録団体の施設使用料を免除した（東部公民館30団体, 西部公民館32団体, 北部公民館23団体）。 ・公民館登録団体や成人学級との共催による公開講座を実施。学習内容やその成果等を地域に還元した。 ・公民館により, 公民館登録団体の活動紹介や会員募集の告知を行い, サークル活動の活性化を支援した。 ・公民館主催事業から派生した学習グループの育成, 公民館登録団体の組織化を支援した。 <p>（公民館登録団体の認定を目指して活動していた団体：東部公民館4団体, 西部公民館3団体〔うち1団体は, 令和5年11月に登録団体に認定〕, 北部公民館4団体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館登録団体で組織した利用団体連絡会を各公民館で開催し, 地域文化祭の取組内容, 利用団体連絡会主催のイベント, 利用団体連絡会役員の選出方法等について意見交換, 情報共有を図った。 ・東部公民館では外部エレベーター設置工事が終わり, 共用を開始した。また, フリーWi-Fiを御利用いただくことで, 公民館諸室利用者や公民館主催講座参加者等の学習環境の向上を図った。 ◆新型コロナウイルス感染症5類移行後の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館施設申請方法は, 高齢者の利用が多く3密を継続的に避けるため, 郵送や投函による申請書受付方法を継続した。 <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校施設開放による市民の活動支援（利用日数 延べ6, 279日, 延べ利用者数207, 637人） <ul style="list-style-type: none"> ・各開放運営委員会との連携を図るために行う、総合開放運営連絡会の開催を対面及びオンライン併用で2回実施した。 ○学習グループ主催の公開講座への助成（7グループ, 講師謝礼延べ11人, 保育者謝礼延べ0人）、広報の支援, 令和5年度学習グループサポート記録の発行（6月） ○社会教育関係登録団体活動事業補助金の交付 <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育関係登録団体からの申請に基づき, 12団体へ交付した。 ○公民館登録団体等の活動への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館登録団体の施設使用料を免除した（東部公民館31団体, 西部公民館32団体, 北部公民館21団体）。 ・公民館登録団体や成人学級との共催による公開講座を実施。学習内容やその成果等を地域に還元した。 ・公民館により, 公民館登録団体の活動紹介や会員募集の告知を行い, サークル活動の活性化を支援した。 ・公民館主催事業から派生した学習グループの育成, 公民館登録団体の組織化を支援した。 <p>（公民館登録団体の認定を目指して活動していた団体：東部公民館3団体, 西部公民館2団体, 北部公民館3団体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館登録団体で組織した利用団体連絡会を各公民館で開催し, 地域文化祭の取組内容, 利用団体連絡会主催のイベント, 利用団体連絡会役員の選出方法等について意見交換, 情報共有を図った。 ・フリーWi-Fiの提供を通じて, 公民館諸室利用者や公民館主催講座参加者等の学習環境の向上を図った。 ・東部公民館では令和7年度開館50周年を迎えるにあたり, 諸室修繕を実施した。 ・公民館施設申請方法は, 高齢者の利用が多く3密を継続的に避けるため, 郵送や投函による申請書受付方法を継続した。 	<p>令和7年度以降の取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校施設の開放 <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設開放における運営委託費について, 公費の適切な執行の観点から, 執行に際しての留意点等に関する周知を継続していく。また, 安全面の観点から, 地域運動会などの運営委員会が実施する事業では, 傷害保険及び賠償責任保険の加入を徹底する。 ○学習グループ, 社会教育関係登録団体, 公民館登録団体の活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・各学習グループが実施する公開講座において, 引き続き広報活動や講師謝礼等をサポートし, グループ活動の活性化を図っていく。新規申請グループ拡大のため, 周知・募集期間を十分確保し, 広報活動及び情報収集に努める。 ・社会教育関係登録団体活動事業補助金の交付及び広報活動の支援等, 社会教育関係登録団体への支援を引き続き行う。 ・各種教室の開催, 成人学級等の募集, 公民館登録団体との共催事業の実施などを通じて, 公民館登録団体の新規登録・育成・拡充に向けた支援を継続する。 ・各学習グループが実施する公開講座における開催形態については, 対面方式とオンラインの併用, オンラインのみも可とする。 ○地域の学習拠点及び地域交流の場としての機能を維持 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館を利用する市民の自主的な学習活動を通じて, 仲間づくり, 地域づくりを支援する。 ・公民館施設の使用料の免除, 共催事業の実施, 公民館によりでの活動紹介や会員募集の告知などを通じて, 公民館登録団体の活性化を支援する。 ・公民館主催事業から派生した学習グループの育成, 公民館登録団体の組織化を支援する。 ・安全で快適な学習環境を維持するため, 老朽化の進む施設の適切な維持管理を継続する。
30	障害のある方の社会体験活動への支援（社会教育課）	<p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遊 i n g（社会教育課主催：市内小・中学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒を対象に2カ月に1回程度実施）（登録者数8人, 実施回数6回, 延べ参加者数32人） ○杉の木青年教室（社会教育課主催：市内在住で中学校特別支援学級を卒業した方を対象に月1回程度実施）（登録者数24人, 実施回数9回, 延べ参加者数120人） ○のびのびサークル（市民団体へ運営委託：市内在住の知的障害のある方で, 特別支援学級及び特別支援学校在籍者・卒業生を対象に月2回程度実施）（登録者数12人, 実施回数23回, 延べ参加者数131人） <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遊 i n g（社会教育課主催：市内小・中学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒を対象に2カ月に1回程度実施）（登録者数9人, 実施回数6回, 延べ参加者数36人） ○杉の木青年教室（社会教育課主催：市内在住で中学校特別支援学級を卒業した方を対象に月1回程度実施）（登録者数21人, 実施回数9回, 延べ参加者数125人） ○のびのびサークル（市民団体へ運営委託：市内在住の知的障害のある方で, 特別支援学級及び特別支援学校在籍者・卒業生を対象に月2回程度実施）（登録者数8人, 実施回数15回, 延べ参加者数59人） 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な社会体験活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある方へ社会性を学ぶ機会を提供するため, 事業を継続していく。 ○ボランティアスタッフの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「遊 i n g」及び「杉の木青年教室」におけるボランティアスタッフの充実を図るため, 市報や調布FM等でボランティアスタッフ募集の周知を行っていく。また, ボランティアスタッフの高齢化による登録削除や, 継続参加可能なボランティアスタッフが増加しないこと等の課題があるため, 引き続き, 市報, ホームページ及び障害者スポーツボランティア情報のポータルサイト「TOKYO障スポ&サポート」等で募集の周知を図り, ボランティアスタッフの確保に努める。 ・より安全な運営体制を整えるため, 支援するボランティアスタッフの拡充に取り組む。

No.	主要事業 (所管課)		令和5年度・6年度の振り返り	令和7年度以降の取組等
31	暮らしと地域の 魅力・課題の再 認識、生涯を通 じた学びにつな がる公民館活動 の推進(公民 館)	令和5年度	<p>○課題の再認識につながるまでの学習の発展段階(公民館の様々な事業への参加→仲間づくりの楽しさや生きがいの発見→日常生活の拠点である『地域』の認識→住民同士の間で共同学習や相互学習の体験を通じた身近な課題への気づき)を意識した公民館活動や、地域の魅力をテーマとした公民館活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部公民館では、近隣中・高等学校の教員による講座や中高生によるシニア向けスマホのお悩み相談などを実施した。また、地域の保護者向けの学習活動として、性教育をテーマにした家庭教育講座や成人学級などを開催した。 ◆新型コロナウイルス感染症5類移行後は、コロナ禍前と同様に実施した事業がある一方、飛沫等による感染が心配される事業については、実施を見送った。 ・西部公民館では、成人教育事業等で地域の方を講師迎えての講座や、近隣中学校と連携しての事業を実施する等、地域との連携を進めることができた。また、子育てセミナーなど家庭教育を通じて、不安や悩みの軽減、地域での仲間づくりの一助となるような講座を実施した。 ・北部公民館では、生物多様性を親子で学ぶ事業などを実施した。また、地区協議会との協働により地域の見どころを紹介する事業、神代中学校の学区域を中心に活動している起立性調節障害の親の会との連携事業等、地域団体との協働・連携事業を実施した。 <p>○各種講座、教室等公民館主催事業の一部では、会場による開催と併せてオンラインにより実施した。</p> <p>○地域文化祭の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部公民館では、プレ文化祭を開催し、サークル活動の見学・体験を通じ、会員獲得などサークルの支援を図るとともに、地域の活動を紹介する公開講座、近隣中・高等学校との連携による催し、YouTubeや館内のモニターを活用し、文化祭の宣伝、サークル活動の紹介などに取り組んだ。 ・西部公民館では、開館40周年を記念したイベントや各種事業、展示等を実施するとともに、明治大学附属明治高等学校や福祉資源等、地域における活動を紹介するコーナーを継続して設置した。併せて、飲食を伴う料理サークルの活動を再開するなど、コロナ禍前に近い内容で実施した。 ・北部公民館では、NHKドラマ出演者の講師と、多文化共生について学ぶ国際理解公開講座を開催するとともに、折り紙サークルなどが体験教室を4年ぶりに実施した。ポニーの乗馬体験を実施した日は、一日のイベントとして最も多い563人が来館した。(東部・西部・北部文化祭観覧者数4,544人) 	<p>○引き続き、課題の再認識につながるまでの学習の発展段階(公民館の様々な事業への参加→仲間づくりの楽しさや生きがいの発見→日常生活の拠点である『地域』の認識→住民同士の間で共同学習や相互学習の体験を通じた身近な課題への気づき)を意識した公民館活動を推進する。</p> <p>○市民の学習意欲に応える事業のみならず、登録団体との共催事業、地域との連携事業、地域の魅力を再認識できる事業、地域課題や生活課題を題材にした事業のほか、利用団体への支援、各種連絡会、地域文化祭の開催などを通して、地域に根差した公民館活動を推進する。</p> <p>○主催事業においては、施設の特徴や地域性などを踏まえながら、5つの学習分野(青少年教育、高齢者教育、家庭教育、成人教育、国際理解教育)を主軸とした事業展開を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部公民館では、登録団体や地域との連携による事業を展開し地域交流の活性化を図る。また、令和7年度は、東部公民館開館50周年、市制施行70周年を記念して、年間を通して記念事業を展開する。 ・西部公民館では、環境や防災など地域課題に取り組むとともに、家庭教育や平和事業の充実を図る。 ・北部公民館では、様々な地域団体との連携を図り、協働で事業を実施するとともに、成人教育事業の充実に取り組む。
		令和6年度	<p>○課題の再認識につながるまでの学習の発展段階(公民館の様々な事業への参加→仲間づくりの楽しさや生きがいの発見→日常生活の拠点である『地域』の認識→住民同士の間で共同学習や相互学習の体験を通じた身近な課題への気づき)を意識した公民館活動や、地域の魅力をテーマとした公民館活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部公民館では、近隣の中・高等学校の教員による講座や中高生によるシニア向けスマホのお悩み相談などを実施した。 ・西部公民館では、成人教育事業等で地域の方を講師迎えての講座や、近隣中学校と連携しての事業を実施する等、地域との連携を進めることができた。また、子育てセミナーなど家庭教育を通じて、不安や悩みの軽減、地域での仲間づくりの一助となるような講座を実施した。 ・北部公民館では、生物多様性や天文学など環境や科学を親子で学ぶ事業などを実施した。また、地区協議会との協働による体験型の防災イベント、神代中学校の学区域中心に活動している起立性調節障害の親の会との連携事業等、地域団体との協働・連携事業を実施した。 <p>○各種講座、教室等公民館主催事業の一部では、会場による開催と併せてオンラインにより実施した。</p> <p>○地域文化祭の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部公民館では、プレ文化祭を開催し、サークル活動の見学・体験を通じ、会員獲得などサークルの支援を図るとともに、地域の活動を紹介する公開講座、市立滝城小学校、若葉小学校、第四中学校、第六中学校、第八中学校、桐朋女子中・高等学校、東京都立神代高等学校との連携による催し、YouTubeや館内のモニターを活用し、文化祭の宣伝、サークル活動の紹介などに取り組んだ。また、展示作品はAIを活用し、スマートフォンからの音声説明を実施した。 ・西部公民館では、新たに地域の子育て団体等と連携し、乳幼児から小学生とその保護者を対象とした事業を実施したことをはじめ、地域のコーナーを充実し、近隣の団体や福祉資源を紹介した。また、市立調布中学校、第五中学校の美術部及び、明治大学付属明治高等学校・明治中学校の書道部、美術部の作品展示を中心に、部活動を紹介するコーナーを継続して設置するなど、連携事業を実施した。 ・北部公民館では、サークル活動の学びの成果として、発表、展示、体験等を実施した。また、地域団体との連携によりスタンブラリー、乗馬体験、おばけのおうちなど1日イベントを実施し、多くの子どもたちが参加するとともに、地域住民同士の交流を促進することができた。 	
32	市民の読書・調 査活動への支援 (図書館)	令和5年度	<p>○第4次調布市子ども読書活動推進計画(令和5年度～令和8年度)の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階に応じた読書活動を支援するための取組を実施するなど、子どもの読書活動を計画的に推進した。 ・中・高校生世代に対するアンケート調査を実施した。 <p>○ICTタグシステムの導入に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館サービスの向上を図るため、ICTタグシステムの導入に向けた検討を行い、令和6年度予算の確保等、取組を進めた。 <p>○多様なサービスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育成に係る団体や施設に対し、利用案内や推薦図書リストを配付し、団体の利用を促進した。 ・読書会へテキストの貸出を行い、市民団体の読書活動を支援した。 ・障害のある児童等を対象に、絵本・布の絵本の読み聞かせを実施し、子どもの心の成長を促した。 ・中学生対象に「ぶちねこ便」を発行し、中学生の読書への関心を高めた。 ・初めての方のための読書会や毎月の読書会を行い、市民の読書活動を支援した。 ・第51回調布樟まつりを開催し、市民の集会活動や読書活動を支援をした。 ・宅配の利用は全体として増加傾向にある。 ・「布の絵本製作養成講座」を開催し、蔵書となる布の絵本の製作・修理の担当者を養成した。 ・「音訳者養成講座(初級)」を開催し、音訳者の養成を行った。 ・図書館公式X(旧Twitter)による情報提供の開始 <p>○図書館に関するアンケート調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、より多くの方に図書館が利用されるよう、図書館運営に活用するため、利用者・未利用者のニーズを把握する。 	<p>○ICTタグシステムの円滑な運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年2月から導入しているICTタグシステムについて、図書館での資料貸出・返却において、セルフ貸出機や自動返却機、予約本受取コーナーなどにより、便利で快適な図書館サービスを円滑に運用していく。 <p>○第4次調布市子ども読書活動推進計画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき、子どもの読書環境の整備、読書活動の支援に取り組む。 ・中学・高校生世代に対し、市内公立・私立学校及び青少年施設と連携し、積極的に利用促進を働きかける。 ・第5次調布市子ども読書活動推進計画の策定に向け、市民を対象としたアンケート調査を実施する。
		令和6年度	<p>○第4次調布市子ども読書活動推進計画(令和5年度～令和8年度)の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階に応じた読書活動を支援するための取組を実施するなど、子どもの読書活動を計画的に推進した。 <p>○ICTタグシステムの導入に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館サービスの向上を図るため、ICTタグシステムを導入し、文化会館たづくり1階に予約本受取コーナーを設置した。 <p>○多様なサービスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育成に係る団体や施設に対し、利用案内や推薦図書リストを配付し、団体の利用を促進した。 ・読書会へテキストの貸出を行い、市民団体の読書活動を支援した。 ・障害のある児童等を対象に、絵本・布の絵本の読み聞かせを実施し、子どもの心の成長を促した。 ・中学生対象に「ぶちねこ便」を発行し、中学生の読書への関心を高めた。 ・初めての方のための読書会や毎月の読書会を行い、市民の読書活動を支援した。 ・第52回調布樟まつりを開催し、市民の集会活動や読書活動を支援をした。 ・外出が困難な方等を対象とした、本の宅配サービスを実施した。 ・「点訳者養成講座(ステップアップ研修)」を開催し、点訳者の技術の向上を行った。 ・図書館公式X(旧Twitter)による情報提供を実施した。 ・よりわかりやすいサービスを提供するため、図書館利用登録時の説明動画を作成した。 <p>○図書館に関するアンケート調査結果への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの方に図書館が利用されるよう、図書館運営に活用するため、利用者・未利用者のニーズを把握するアンケート調査を令和5年度に実施し、その調査結果に対する取り組みを取りまとめ、公開した。 	<p>○「つげ義春と調布」展図録の作成(市制施行70周年記念事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調布市ゆかりの、漫画家・つげ義春氏の展覧会を令和5年に開催した。多くの来場者が訪れ、好評をいただいたこの展覧会について、聖地巡りもできるような図録を作成する。

施策10 令和5年度・6年度 点検・評価振り返り				
No.	主要事業 (所管課)		令和5年度・6年度の振り返り	令和7年度以降の取組等
33	文化財の保存及び活用（郷土博物館）	令和5年度	<p>○文化財の保存・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保護審議会及び教育委員会における審議を経て、新たに市教育委員会所蔵の「染地遺跡第128地点出土小銅鐻」を市指定文化財に指定した。また、市史跡「飛田給薬師堂境内行人塚」管理用器具設置事業に対して、市文化財保存事業費補助金を交付した。 調布市郷土芸能祭ばやし保存会との共催で「第64回調布市郷土芸能祭ばやし保存大会」を開催した。 「東京文化財ウィーク2023」企画事業として、文化財講演会「染地遺跡～地下2mの世界 多摩川低地の大遺跡～」や文化財見学会「深大寺から史跡深大寺城跡へ」、文化財ウォーク「染地遺跡をめぐる～多摩川沿いの遺跡～」を開催した。 貴重な縄文遺跡を持つ多摩5市（調布市、東村山市、国分寺市、国立市、西東京市）で連携し、縄文の魅力・歴史的意義をPRし、地域振興及び広域観光の推進に努めることを目的に、スタンプラリーを実施した。 <p>○国史跡下布田遺跡の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 史跡下布田遺跡整備事業では、下布田遺跡史跡整備市民ワークショップや国史跡下布田遺跡保存活用整備検討委員会における意見交換、検討を重ね令和4年度作成の基本設計を基に史跡公園及びガイダンス施設の実施設計を作成した。市民ワークショップを全7回開催し、史跡を活用した事業を企画、実施し、地区協議会等と連携し、地域の活力の向上に資する積極的な取り組みを展開した。 史跡下布田遺跡の周知啓発及び維持管理としてヤギによる除草を2か月間導入し、期間中に環境学習イベントを開催するなどの取組により史跡を広く周知した。日常的な管理及び運用にあたっては、市民ワークショップの参加者や市社会福祉協議会からの協力を得て継続的に実施した。 史跡下布田遺跡を題材とした布田小学校第4学年との学校連携事業の取組を継続し、令和5年度は「下布田遺跡をすてきな公園に！」というテーマで、将来の史跡公園にあったらよいものの検討や、周知用ポスター制作、整備事業に充てるための募金活動等、幅広い取組の展開があった。 	<p>○文化財の保存・活用</p> <p>調布市文化財保護審議会の調査審議に基づく文化財の保存・活用に努めるとともに、それらを積極的に活用・公開する。また、国指定史跡である下布田遺跡及び深大寺城跡、国登録有形文化財である旧武者小路実篤邸や真木家住宅など、調布市を特徴づける貴重な文化財については、これらを活用した市民の主体的な学びや活動が、より一層発展するよう取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調布市文化財保護審議会の調査審議に基づく文化財の指定・登録、郷土芸能の保存・継承 東京文化財ウィークへの参画による文化財の公開機会の拡大、講演会等の実施 国登録有形文化財真木家住宅の保存・活用 <p>○国史跡下布田遺跡の整備・活用</p> <p>国史跡下布田遺跡整備事業では、令和9年度中の開園を目指し、ハード面の取組を推進するほか、史跡の保全や活用の担い手づくりとして、史跡ボランティア準備会を実施する。</p>
		令和6年度	<p>○文化財の保存・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保護審議会及び教育委員会における審議を経て、新たに市教育委員会所蔵の「下石原八幡神社本殿及び拝殿」を市指定文化財に指定した。また、前年度に公有化した市指定史跡「近藤養生家跡」の整備を行った。 調布市郷土芸能祭ばやし保存会との共催で「第65回調布市郷土芸能祭ばやし保存大会」を開催した。 「東京文化財ウィーク2024」企画事業として、文化財講演会「多摩の地域史料のなかの新選組・近藤勇」や文化財見学会「深大寺から史跡深大寺城跡へ」、文化財ウォーク「近藤養生誕の地上石原を歩く～近藤養生家跡から上石原若宮八幡神社へ～」を開催した。 貴重な縄文遺跡を持つ多摩5市（調布市、東村山市、国分寺市、国立市、西東京市）で連携し、縄文の魅力・歴史的意義をPRし、地域振興及び広域観光の推進に努めることを目的に、スタンプラリーを実施した。 <p>○国史跡下布田遺跡の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 史跡下布田遺跡整備事業では、下布田遺跡史跡整備市民ワークショップや国史跡下布田遺跡保存活用整備検討委員会における意見交換、検討を重ね、令和5年度作成の実施設計を基に第1期史跡整備工事を実施した。 市民説明会を開催し、史跡整備事業に関する理解促進に努めた。 市民ワークショップを全8回開催し、史跡を活用した事業を企画、実施し、地区協議会等と連携し、地域の活力の向上に資する積極的な取り組みを展開した。 史跡下布田遺跡の周知啓発及び維持管理としてヤギによる除草を3か月間実施し、期間中に環境学習イベントを開催するなどの取組により史跡を広く周知した。日常的な管理及び運用にあたっては、市民ワークショップの参加者や市社会福祉協議会からの協力を得て継続的に実施した。 布田小学校第4学年を対象とした下布田遺跡を題材とした授業の実施、布田小学校の全学年に「下布田遺跡便り」を配布するなど、学校連携事業の充実に取り組んだ。 史跡整備ニュースレター第5号・第6号を発行し、史跡整備事業の各種取組について進捗等を広く周知した。 	
34	地域ゆかりの歴史・文化を生かした事業の展開（郷土博物館・図書館）	令和5年度	<p>○郷土の歴史・文化遺産や地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動等を生かした事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土博物館では、企画展「中川平一作品展 風景画でたどる調布のいまむかし」、「発掘された染地遺跡～多摩川低地のムラ～」を開催し、市内在住の画家である中川平一氏の描いた風景画や染地遺跡第128地点の出土遺物を紹介した。中川平一作品展の関連事業では、画家本人によるギャラリートークを開催した。 小学校第3学年を対象とした郷土学習展館外授業（学芸員による出前授業）を18校、30回実施したほか、新たに調布市に赴任した小・中学校教員を対象とした初任者研修の受け入れを行った。 勾玉づくりやしめ飾りづくりを親子で体験する「子どもはくぶつかん」事業のほか、武者小路実篤記念館や公民館などの市内施設を会場とした共催展示・普及事業を開催した。 失われるおそれのある郷土の歴史・文化の記録作成として市内祭礼の記録撮影を行った。 郷土博物館公式X（旧Twitter）を活用し、郷土博物館の事業や活動、郷土の歴史・文化遺産に関する情報発信を行った。市公式YouTubeチャンネルに郷土博物館の所蔵する古写真や作品を活用して制作した動画「調布今昔写真館～中川平一さんの風景画と古写真でたどる調布～」、「調布今昔写真館 甲州街道編」を公開した。 令和4・5年度にご寄贈いただいた中川平一作品172点の収蔵資料データベースへの登録・公開など、資料の保存、価値や魅力の発信に取り組んだ。 図書館では、「地域」や「映画」にちなんだゆかりの資料を収集し、利用に供するとともに、保存のためのデジタル化を行った。また、館内では「水木しげる氏関連資料」を展示した。 「映画のまち調布 シネマフェスティバル2024」では、『出張！映画資料室「東京現像所という仕事」』の展示を行った。分館では上映作品の関連作品を集めてコラボ展示を行った。 <p>○武者小路実篤記念館を中心とした事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 春の特別展「武者小路実篤の1923年」では、関東大震災が発生した年であると同時に『白樺』の終刊や初めての子を得るなど実篤にとっても禍福の大きな年であった1年間を掘り下げて紹介した。秋の特別展「武者小路実篤の本をめぐる物語」では、文学作品の内容とは別に本そのものに注目し、実篤の本に対するこだわりや出版をめぐる事件など、一冊一冊の物語の紹介とあわせて、時代背景や実篤の交友関係を読み解き、記念館開館以来37年間の資料収集活動の成果を披露した。 学校との連携事業では、ホームページの「学習サポート」ページにおいて、授業に利用しやすいよう短くまとめた実篤公園の自然解説動画4本を公開した。また、4年ぶりに実施された中学生職場体験事業の受け入れを行った。 調査・研究事業では国文学研究資料館が実施する近代文学者草稿のデジタル化プロジェクトに参画し、収蔵する実篤の自筆原稿のうち、177点（原稿総枚数3,838枚）を撮影した。令和6年4月に国文学研究資料館の「国書データベース」にて公開される予定となっている。 施設の維持管理・運営においては、令和5年11月28日から令和6年1月19日まで照明設備改修工事ほか排水ポンプ交換など館内設備改修工事に伴い臨時休館した。 	<p>○郷土の歴史・文化遺産や地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動等を生かした事業の展開</p> <p>郷土博物館では、郷土の歴史や文化に関する資料の収集、保存、調査・研究を行うとともに、令和7年度は市制施行70周年記念事業を実施するほか、学校教育の学習内容に即した展示や館内・館外授業等、学校と連携した教育普及事業を推進する。また、「博物館法の一部を改正する法律」の趣旨を踏まえ、博物館事業が、「多様な主体との連携・協力」「文化観光」の視点からも実践され、地域の活力の向上に寄与できるよう取り組む。</p> <p>図書館においては、引き続き地域ゆかりの資料を収集・デジタル化し、各種テーマの展示で活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 深大寺地区や市内に点在する歴史・文化資源を活用した「文化観光」の取組 多様な主体との連携・協力による地域の活力の向上に資する博物館事業の推進 収蔵資料データベースの整備・公開、公式YouTubeチャンネルやSNSを活用した情報発信 学校教育の学習内容に即した展示や出前授業等、学校と連携した教育普及事業の実施 失われるおそれのある郷土の歴史・文化の記録作成 地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動等の展示・普及事業の推進 <p>○武者小路実篤記念館を中心とした事業の推進</p> <p>武者小路実篤記念館では、実篤研究の情報収集発信基地として、広く事業や収蔵品情報を提供する情報提供システムの機能を充実させるとともに、実篤を核として記念館が有する文学・美術・歴史に関する豊富な文化資源を活用した多様な事業を提供する。令和7年度は、実篤記念館開館40周年、実篤生誕140年、市制施行70周年を記念して、年間を通して記念事業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開 実篤記念館情報提供システムのリニューアルと運用 実篤公園の整備と、実篤記念館とのより一体的な事業展開の検討 武者小路実篤記念館の維持管理・運営
		令和6年度	<p>○郷土の歴史・文化遺産や地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動等を生かした事業の展開</p> <p>郷土博物館では、郷土の歴史や文化に関する資料の収集、保存、調査・研究を行うとともに、令和7年度は市制施行70周年記念事業を実施するほか、学校教育の学習内容に即した展示や館内・館外授業等、学校と連携した教育普及事業を推進する。また、「博物館法の一部を改正する法律」の趣旨を踏まえ、博物館事業が、「多様な主体との連携・協力」「文化観光」の視点からも実践され、地域の活力の向上に寄与できるよう取り組む。</p> <p>図書館においては、引き続き地域ゆかりの資料を収集・デジタル化し、各種テーマの展示で活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 深大寺地区や市内に点在する歴史・文化資源を活用した「文化観光」の取組 多様な主体との連携・協力による地域の活力の向上に資する博物館事業の推進 収蔵資料データベースの整備・公開、公式YouTubeチャンネルやSNSを活用した情報発信 学校教育の学習内容に即した展示や出前授業等、学校と連携した教育普及事業の実施 失われるおそれのある郷土の歴史・文化の記録作成 地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動等の展示・普及事業の推進 <p>○武者小路実篤記念館を中心とした事業の推進</p> <p>武者小路実篤記念館では、実篤研究の情報収集発信基地として、広く事業や収蔵品情報を提供する情報提供システムの機能を充実させるとともに、実篤を核として記念館が有する文学・美術・歴史に関する豊富な文化資源を活用した多様な事業を提供する。令和7年度は、実篤記念館開館40周年、実篤生誕140年、市制施行70周年を記念して、年間を通して記念事業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開 実篤記念館情報提供システムのリニューアルと運用 実篤公園の整備と、実篤記念館とのより一体的な事業展開の検討 武者小路実篤記念館の維持管理・運営 	